



1 恩智川等の治水対策

<中谷恭典議員>

私の地元であります柏原市は、大阪平野の南東部、大阪府と奈良県との府県境に位置している。地域の3分の2は山が占め、中央部には大和川が流れる自然環境豊かなまちである。

昔の大和川は、柏原市辺りで、北向きに流れていた。度々氾濫を起こし、先程、寝屋川で氾濫という言葉もありましたが、この大和川が北向きに流れている頃に氾濫が起こった。約300年前に、中甚兵衛という技師が、この大和川の大改革を行った。今は、大阪湾に直接流れ込んでいる。現在の柏原市域には、昔の大和川及びその支川であった名残から恩智川や平野川、大阪府が所管する一級河川が流れている。



柏原市には、河川のうち、恩智川、現在、法善寺遊水地の整備が行われている。Aゾーン3. 9へ

クータルとBゾーン約7.5ヘクタールの計約11.4の土地を掘り下げ、大きなプールをつくり、恩智川の洪水を一時的に貯留し、下流河川の氾濫を防ごうという治水施設である。完成時には遊水地の上には、柏原市が管理する公園などとして府民が利用できる予定である。

この法善寺遊水地について、既に文化財調査も着手しているが、地域の皆様の協力をいただき、昨年度に用地買収が完了した。今後、本格的に工事が進められると思うが、いくつかのご質問をさせていただく。

遊水地整備は、文化財調査を伴う工事となる。全体の完成までには長い年月を要する。まず、第一期計画として、約10年、恩智川沿いのAゾーンの部分の掘削をする。早期に効果を発揮させるための工事が現在行われている。

そこで、残るBゾーンの内、使用可能な部分については、暫定的にでも府民が利用できるよう工夫すべきと考えるが、都市整備部長の所見を伺う。



<都市整備部長>

法善寺遊水地については、文化財調査と併せて掘削しなければならないとの制約もあるが、まずは、第一期計画として、Aゾーンの早期の治水機能の発現に向け、積極的に進める。また、残るBゾーンについては、工事中に上面を暫定利用することについて、維持管理の主体となる柏原市と利用方法などについて協議を進めており、引き続き、具体化に向け取り組む。

<中谷恭典議員>

府は各地において事業を推進中である。いたるところでコスト高の面から予算の上乗せの修正が行われている。これが現実である。府民の皆様の預かる税金を用いているものであり、スピードアップを強く願います。また、地域住民の安全・安心と府民のための有効活用をお願いします。

一方、掘削した土砂の搬出ルートとなっている旧国道170号の歩行者の安全対策について伺う。現在、文化財調査が中心で土砂の搬出量が限られている期間においてさえ、八尾土木事務所が地元地域と協議しながら丁寧に安全に対応して



いただいている。

法善寺遊水地からの土砂搬出については、10tトラックで一日片道20台と地元住民に承諾を得ていると聞いている。近年のゲリラ豪雨を踏まえ、工事もスピードアップし、速やかに整備を進めていく必要があることから、今後、搬出トラックの台数が増える可能性がある。遊水地の事業地から国道25号に至るまでの区間の安全対策について、小学校に隣接する一部区間は歩道整備が完了しているが、小学校より南側の約1kmについては、かまぼこ型道路並びに、歩道に関しては、片側だけの歩道のみであり、また、自転車も危険な状態の歩道である。安全上疑問に思う。安全対策について、引き続き、しっかりと対応していく必要があると考えるが、今後の取り組みについて、都市整備部長に伺う。

<都市整備部長>

土砂搬出に伴う旧国道170号の安全対策については、これまでも地域の皆様に協力をいただきながら、歩行者の安全確保に努めてきたところであり、今後も、工事の状況等見極めつつ、随時、丁寧に対応していく。

<中谷恭典議員>

また、土砂搬出に伴う旧170号線の安全対策については、地域の皆様のご協力をいただきながら、歩行者の安全対策に努めていきたいというお言葉をいただいた。この事業は、柏原市より北の治水事業要素が大きいことから地元住民の皆さんにとっては、犠牲的感情がある方もいる。部局においても、このことを十分理解のうえ、安全・安心に努力していただきたい。

2 JR柏原駅西口付近の交差点改良事業

<中谷恭典議員>

柏原市が計画している交差点改良事業に対する大阪府の支援について要望する。

この交差点は、JR柏原駅西口から、市道として、府民の多くが通るが、片側だけが横断歩道があり、警察官でさえ首をかしげる交差点である。この交差点改良事業については、工事区間に大阪府が管理する一級河川平野川が含まれ、交差点に必要な用地買収は、既に、柏原市が行っている。今後、柏原市の交差点部の設計作業が進捗すれば、大阪府との河川協議が必要になると聞いている。



歩行者の安全確保のため、柏原市の交差点改良事業の一刻も早い完成が望まれるところである。市事業の円滑な推進が図られるよう、大阪府としても、技術的指導も含めた支援を要望する。

3 国道170号西古室交差点の安全対策

<中谷恭典議員>

次は藤井寺市の質問である。国道170号、通称「外環状線」西古室交差点の安全対策について伺う。これは、富田林から八尾に向けて走っている写真である。この反対側が八尾から羽曳野、富田林に向け走っている。国道170号は、大型車を含む一日当たり交通量が4万台を超える大阪でも有数の幹線道路である。羽曳野市と藤井寺市の境に位置する西古室交差点は、右折レーンが無く、北行き車線はカーブのため見通しが悪く、また南側に位置する近鉄線を跨ぐ高架橋に関しては、車道が下り坂ということで、かなりのスピードで下ってくる。交差点内に停車した右折車両に後続車が追突する事故が多発する地点である。



このような危険な状態を解消するためには、抜本的な交差点改良が必要である。大阪府においても、これまで、交差点内にある歩道橋の撤去を前提に警察等の関係機関と協議を進めていたと聞いていた。

ところが、この4月から、新たに小学校生が、この歩道橋を通学路として利用する通学路認定となり、これまでの歩道橋撤去ではなく、歩道橋存置を前提に、安全対策を検討することとなった。

こうした状況の変化を踏まえると、西古室交差点については、これまでの検討のように抜本的な交差点改良は困難かもしれないが、安全対策・事故防止対策を取り組んで欲しいと考えているが、都市整備部長の所見を伺う。

国道170号西古室交差点



<都市整備部長>

議員ご指摘のとおり、古室横断歩道橋は、学童の安全確保の観点から存置させる必要があり、西古室交差点の抜本的な改修は困難な状況である。そのため、厳しい状況下であるが、例えば、道路の中央帯などのスペースを活用した、直進と右折を複合化したレーンの設置や、交差点の手前で、注意を喚起する予告標識、路面標示の設置など、現道内での可能な安全対策について早急に警察と協議の上、実施していく。

<中谷恭典議員>

正確でスピーディな答弁をいただいた。藤井寺市民の皆さん、羽曳野市民の皆さんは、今の心強い言葉を受け取ったと感じた。

4 都市計画道路八尾富田林線の早期整備

<中谷恭典議員>

都市計画道路八尾富田林線の休止部分についての質問である。

都市計画道路八尾富田林線は、八尾市、藤井寺市、羽曳野市、堺市及び富田林市に跨る全長約11.4kmの間の道路である。

①の羽曳野市の市道郡戸古市線から河原城学園前線、並びに②の南阪奈道路から堺市美原区までの区間は既に供用している。また、③の羽曳野市の市道河原城学園前線から南阪奈道路までの事業中区間は、現在、用地買収を行っていると聞いている。

しかし、④の藤井寺市域の府道大阪羽曳野線から堺大和高田線までは、事業休止区間となっている。その他の事業未着手期間もある。この④の休止区間については、休止再開を求める府民の声は絶大である。

そこで、藤井寺市域の都市計画道路八尾富田林線の今後の取組みについて、都市整備部長に伺う。

<都市整備部長>

都市計画道路八尾富田林線の藤井寺市域の府道大阪羽曳野線から堺大和高田線までの約1.6kmの区間については、事業費が膨大であることから、これまで関係市と協議を行い、6車線から4車線への縮小や立体交差箇所を平面交差化など、車線数や構造の見直しを行うことにより、相当のコスト縮減が可能であることを確認し、現在、都市計画変更の素案を作成している。



引き続き、関係機関との協議を精力的に進め、早期の都市計画変更に向け取り組んでいく。

<中谷恭典議員>

去る6月7日に、柏原市古町地区から藤井寺市舟橋地区において、これから30年以内に70%の確立で起こるかもしれない南海トラフ大地震を想定した仮設橋訓練である。「南海レスキュー」と名付け、陸上自衛隊第3師団が、大阪府柏原市並びに藤井寺市を挟む大和川に、全長約100メートルの仮設橋をかける訓練を公開したものである。この訓練は、橋や道路の寸断に備え、柏原市長、藤井寺市長、そして、知事もお力をいただいて、私も力強く国の方に訴えさせていただき、大和川で、初めての訓練である。

陸上自衛隊による仮設橋訓練



大阪府では、広域かつ大規模な災害が発生した場合、迅速かつ的確な災害応急対策を実施するため、淀川より北の大阪北部、大和川より北の大阪中部、大和川より南の大阪南部に、広域防災拠点が整備されている。

大阪中部に整備されています中部広域防災拠点は、八尾空港に隣接する場所にあり、先程説明いたしました訓練が行われた場所の近くである。

大和川に隣接する藤井寺市、柏原市、羽曳野市、河南町、太子町は、大和川より南部にあり、広域防災拠点としては、泉南市にあります南部広域防災拠点と聞いている。大和川で、広域防災拠点が中部と南部とに分かれていると言っていいでしょう。

大和川に隣接する藤井寺市などは、いざ、大きな地震が発生した時、僅か約1km圏内に、大阪中部に整備されています中部広域防災拠点があるが、泉南市りんくう南地区にあります南部広域防災拠点まで救援物資等の調達にかななければならない。先日行われました中部防災訓練の際、私的ではあるが、危機管理監に質問をさせていただき、十分対処するという言葉もいただいた。

救援物資を調達するためには、中央環状線、外環状線、阪神高速、阪和道、いろんな形で、この道路自身は、阪神大震災、東日本大震災でもあっても、緊急物資指定道路に指定されている。藤井寺市から泉南市りんくう南地区にあります南部広域防災拠点まで12～24時間かかると想定されている。



そこで、先程の写真、見ていただきました自衛隊の訓練の部分から察知すると、今申し上げている

八尾富田林線の緊急の整備に関して、橋の部分の計画はどうなっているのか、都市整備部長に伺う。

<都市整備部長>

八尾富田林線の都市計画変更の素案作成に際しましては、先ほどご答弁申し上げました藤井寺市域と同様に、現在6車線である八尾市域につきましても、大和川を渡る橋梁を含めまして、幅員や構造等の見直しの検討を進めている。

この路線は、八尾市と富田林を結ぶ南河内地域の広域幹線道路で南北軸の強化を図るものであり、大阪府中部広域防災拠点のアクセス強化にも資する路線であるため、引き続き、しっかりと取り組んでいく。

<中谷恭典議員>

これで、藤井寺、羽曳野、富田林の府民の皆さん、心強いお言葉をいただいたことを報告させていただく。

5 防災に資するインフラ対策

<中谷恭典議員>

過去3年3人の先輩議員の方が、この八尾富田林線の質問を知事にいたしました。南海トラフ地震など、大規模な災害が発生した場合、危機管理上、重要な案件である。知事、恐れ入りますが、「恩智川等の治水工事」、そして、八尾富田林線の整備に関し所見を伺う。

<松井知事>

議員お示しの「都市計画道路八尾富田林線」や「寝屋川流域における治水対策」は、広域的な防災・減災効果を有する重要なインフラであると重々承知している。

府民の安全・安心の確保は、行政の最優先の使命であり、このような広域的な防災・減災対策に資するインフラ整備をしっかりと取り組んでいく。

地元の様々なインフラのご質問であった。ぼくも議員の頃に、様々な地元のインフラについて、スピード感をもったインフラ整備が重要視をしていた。

当時、知事になれば、すぐにやるのになと思っていたこともあるが、大阪府域、能勢町から岬町までのエリアの中で、優先順位をしっかりとつけながら着実にインフラの整備、防災対策を進めていかなけ



ればならないと考えている。

議員から様々なご指摘をいただいたので、その順位の中で、どういう位置づけになるのか、関係部局としっかりと協議をしながら事業を進めていきたいと思っている。

【 結 び 】

<中谷恭典議員>

期待のできる答弁をいただいた。ありがとうございました。

今、我が会派が大阪都構想を推進している。みなさん目を閉じていただけますか。大阪を沈まった大きな池と考えてください。そこへ、一つの小石、起爆剤ですよ、波紋が広がる形を想像してください。一つ二つ、いろんな形で、都構想の肝でございます特区構想、並びに、医療特区、教育特区、IR特区、この小石をいっぱい投げいただくことにより、大阪の衛星都市も発展につながる、これが、大阪都構想であると私自身思っている。



御静聴ありがとうございました。